

【11月号】

発行所 有限会社ジーエフ企画
〒231-0057
神奈川県横浜市中区曙町3-42-1
ストークパレス横浜503
編集・発行人 宮崎紘一
TEL. 045-260-6058
FAX. 045-260-6059
E-mail: golf.mkou@gmail.com
購読料 一部250円 年間3,600円(税込)

GOLF REVIEW

月刊ゴルフレビュー

カレドニアン・ゴルフクラブ

場 所 : 千葉県山武郡横芝光町長倉1658
電 話 : 0479-82-6161
開 場 : 1990年10月
設 計 : J・マイケル・ポーレット
コ ー ス : 7100ヤード パー71
(通常営業時はパー72)

※姉妹クラブに富里ゴルフ倶楽部がある

優勝の片岡大育を始め、参加選手が最も難しいと口を揃えた15番(498ヤード、パー4、通常時はパー5)第2打がロングショットの上、グリーンフェアウェー左サイドからグリーン手前、右サイドをクリークが流れ、狙いはグリーンのみという美しくも、最高難度のホールだ

アジアパシフィック オープンゴルフチャンピオンシップ
「ダイヤモンドカップ2017」の開催で、トーナメントコースのあるべき姿を日本中に知らしめた

ゴルフレビューコース探訪 270

カレドニアン・ゴルフクラブ (千葉県山武郡横芝光町)

アジア太平洋ゴルフ連盟と、日本ゴルフ協会(JGA)の共同主催によるアジアパシフィックオープンゴルフ・チャンピオンシップ「ダイヤモンドカップ2017」は、グローバル化の波に乗り遅れた日本の男子ゴルフに貴重な一石を投じる結果となった。その大きな理由は開催コースによるものであった。

舞台となったのは、千葉県のカレドニアン・ゴルフクラブ。ここは従来のトーナメントコースとは一線を画するコースとして知られ、開催が決定したときから、専門家筋の間で大きな関心を集めていた。

それは日本のあまたあるコースの中で、カレドニアンGCが異彩を放っていたからだ。

バブル経済の流れに乗った1990年に開場。誰もがやさしく、そして接待というゴルフ本来の姿とはかけ離れた目的で安易なコースが乱立したとき、ここは「ゴルフの本質を守り抜き、世界水準のコースを造って、ゴルフファンのレベル向上のお役に立ちたい」との理念で、創設者の早川治良社長(現東京グリーン株式会社取締役会長)が、一切の妥協を一切許さず、頑固なまでにホンモノに拘り続けた作品だった。当時も今も「難易度が高すぎる」との評がある中で、約30年の時を経て最高レベルのプロの競技で、その真価が改めて陽の目を浴びることになった。ホンモノは時代を問わず普遍であることの証明である。

設計は米国の高名なコース設計家J・M・ポーレット。ゴルフコースの原点であるスコットランドのリンクスを基調とし、これに、より戦略的な米国式设计を取り入れたいわばモダンクラシックなデザインが特徴である。

カレドニアンの大きなポイントはグリーンである。ホールの設計によって、様々な形状を見せるグリーンは、蓮の葉をつなげたような大小のうねりがあり、おまけに高速。バンカーや池、クリーク、ラフ、マウンドは、そのグリーンに応じて配置されている。グリーンが主役で、ハザードはあくまでそのグリーンを引き立てる脇役。マスターズで知られるあのオーガスタを思わせる造形である。

(8面へ続く)